

日中韓子ども童話交流事業

日本・中国・韓国の子どもたちが一堂に会し、各国の絵本・童話を通じて読書の楽しみを知るとともに、一緒に語り合い、協力して創作絵本を作成することで、3カ国の文化の特徴や共通性、違いなどを知り、相互に友情を深めあうことを趣旨としています。本事業は毎年度テーマを設定し、令和元年度は「園」をテーマに活動を行いました。なお、本事業は平成14年から実施され、平成23年からは3カ国による巡回開催により実施しています(令和2～3年度は新型コロナウイルス感染症の拡大に伴い延期)。

- 事業期間／例年8月17日～23日(6泊7日)
- 実施場所／日本、中国、韓国(3カ国による巡回開催) ※令和元年度は中国・北京市、河北省承德市にて開催
- 参加者／小学生4～6年生 100名(各国33名、開催国34名)
過年度参加経験者 各国5～10名程度
- 主催／【日本】日中韓子ども童話交流事業実行委員会(子どもの未来を考える議員連盟、独立行政法人国立青少年教育振興機構)、【中国】中国関心下一代工作委員会、【韓国】ソウル教育大学
- 後援／中華人民共和国駐日本国大使館、駐日本国大韓民国大使館、文部科学省、外務省、国立国会図書館国際子ども図書館、公益財団法人文字・活字文化推進機構、公益社団法人全国学校図書館協議会
- プログラム／世界に1つだけの創作絵本作り、絵本読み聞かせ、見学、共同宿泊体験、絵本の発表会 等

【令和元年度の事業の様子】



万里の長城見学



テーマ「園」に沿った絵本を作成

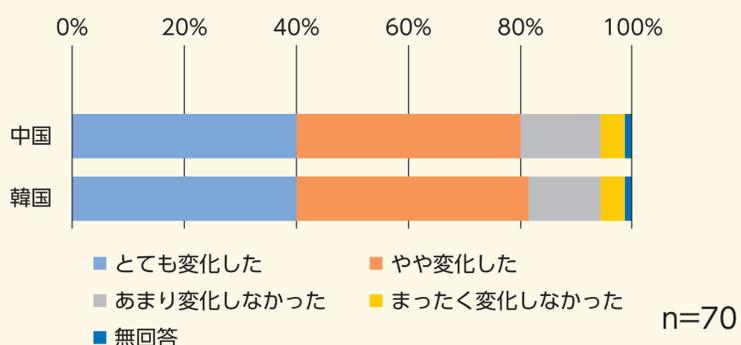
●参加者の声

- ・私は「別れは、次のもっと素晴らしい再会のためにある！」とかたく信じています。10年後、私たちは参加経験者としてまた会いましょう！(中国の参加者)
- ・私は子ども童話交流に行ってから、分かったことがたくさんあります。一人ではできなかった事を友達と一緒にすると、楽しくて、簡単にやりとげることができるという事と「童話交流」は競争ではなく協同であるという事です。(韓国の参加者)
- ・中国での出会いは、ぼくの世界をぐんと広げてくれた。ぼくたちは、言葉や文化がちがうし、考え方もそれぞれだけど、ちゃんと分かり合うことができました。(日本の参加者)

●事業参加後の変化

※平成23年～29年(26年を除く)の参加経験者(198人)のうち、12～21歳の70人が回答。

当事業参加前／後で中国・韓国に対する印象やイメージに変化はありましたか



この交流を機に国際交流に興味を持ちましたか

